

《豊かな自然環境をいかしたまちづくり》

第2期生物多様性のだ戦略スタート

市では、みどり豊かな自然環境を次世代の子ども達に継承していくため、生物多様性における現状をふまえ、「第2期生物多様性のだ戦略」を策定した。

生物多様性は私たち人間の生活を支え、様々な恵みをもたらすものである。そのため、未来を担う子ども達に、たくさんの生き物が生息、生育する自然環境を残していくことを目的に、平成27年3月に「生物多様性のだ戦略」を策定し、生物多様性のシンボルとしてコウノトリを位置づけ、自然と共生する地域づくりに取り組んできた。

そうした中で、令和2年度が現行計画の最終年度になることから、令和元年度に生物多様性のだ戦略市民会議を設置し、見直しを行ってきた。また、現戦略の現状や課題をふまえ見直しを行うにあたり、自然環境調査や社会環境（アンケート）調査を実施し、市民会議の中で、将来像や実施事業を協議し、素案が作成された。

令和5年1月5日から本年2月3日まで素案に対するパブリック・コメント手続きを実施した結果、5件の意見があり、2件の意見を反映させ、本年2月24日に開催した第10回市民会議から答申を受けた。

第2期戦略においては、「私たちの暮らしを支えるみどりと生きものがつながるまち～コウノトリもすすめる自然なのだ～」を将来像に掲げている。

この将来像の実現に向けて、生物多様性の重要性をわかりやすく伝えるとともに、豊かな自然環境をいかしたまちづくりとして、生物多様性を「まもる」「いかす」「たのしむ」「つなぐ」という4つの基本方針に基づき、市民や教育機関、企業、市民活動団体など関係主体との連携、協働により45の事業に取り組んでいく。

●第2期生物多様性のだ戦略概要

計 画 名：第2期生物多様性のだ戦略

計画期間：2023（令和5）年度から2032（令和14）年度までの10年間

目 標：一人一人が生物多様性を感じ、行動する

指 標：生物多様性の認知度

子ども（小学校5年生）の認知度15%（2020年度：6%（※））

大人（小学校5年生の保護者）の認知度40%（2020年度：30%（※））

（※2020年度実施のアンケートで「意味も知っている」と回答した割合）

将 来 像：私たちの暮らしを支えるみどりと生きものがつながるまち

～コウノトリもすすめる自然なのだ～

● 4つの基本方針

方針1	生物多様性を「まもる※」	多くの生きものが関わりあえるように、生きものが存在する「自然環境」を守ります。 ※「まもる」とは、「大切にする」という意味で使用しています。
方針2	生物多様性を「いかす」	防災や農業、観光など、暮らしや経済において、「自然の価値」をいかします。
方針3	生物多様性を「たのしむ」	自然に親しむ、遊ぶ、癒やされるなど、「自然の魅力」を楽しみます。
方針4	生物多様性を「つなぐ」	環境教育・学習、人材育成、財源確保などによって、「自然の恵み」を次世代に引き継ぎます。

● 生物多様性のシンボルであるコウノトリの状況

令和3年度に放鳥した「リン（メス）」が、昨年8月末から江川地区に戻り、長期滞在している「ヤマト（オス）」と行動をとともにしている。

コウノトリの繁殖期に入り、それぞれが気に入った場所に枝を運び、巣作りをしている様子が見られるが、まだ、交尾行動は確認されていないため、引き続き見守りたい。

なお、5年度の放鳥については、国内のコウノトリ個体群の管理をしているIPPMP-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）の計画に基づき、他施設から有精卵を譲り受け、ふ化、生育したヒナをソフトリリースによる放鳥を実施する計画であるが、野外コウノトリの状況をふまえた上で進めたい。

問合せ＝みどりと水のまちづくり課・直通 04-7199-8147

代表 04-7125-1111（内線 2692）

野 田 市